届けますっ！大和魂

2025年8月
Vol.67

経営理念

有限会社大名は「届けますっ!大和魂」を合言葉に
日本の歴史、古美術を発信し、貴方（お客様）の
趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します

こんにちは。中堀明美です。毎日暑い日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？
尾道七佛巡り（Vlo59）からお寺や神社に行く事に魅力を感じ、時間を見つけて、参拝に行っています。
今回は、尾道の隣町で福山市にある「多祁伊奈太伎佐耶布都神社（たきいなたきさやふつじんじゃ）」へ行ってきましたぁー！！
山奥にあり、なんと！選ばれた人しかたどり着けないとか…少し道に迷ってしまい焦りましたが、無事に到着することができました。土の香り、気温、風が涼しく心地よくて、自然を感じることができ、とても感動しました。

参道入口 鳥居

大きな岩の中に本殿が！！！！！ なんと神秘的なんでしょう

ご祭神 下道国造兄彦命（しもつみちのくにのみやつこ）

由来 原始的な自然崇拝の名残を残している古い神社で、創建は不詳。平安時代の歴史書『日本三代実録（にほんさんだいじつろく）』によれば、1500年にも及ぶ古い由緒の神社で延喜式神名帳に記され、祈年祭というお祭には国から奉幣（供物）があったと伝えられる。神主家の変遷や火災などの災難によってしばらく式内社であることも分からなくなったが、明治時代の直前に式内社と改めて認められ、阿部正桓（あべまさたけ）藩知事が参詣し多くの武具や幕を奉納したという。かつて素盞嗚尊（スサノオノミコト）が八岐大蛇を退治したときに用いた剣が祀られていたという伝説もある。

多祁（たけ）：勇ましい、素晴らしい、または大いなるものなどの意味。
伊奈太（いなた）：または稲田氏、固有名詞で、人名(姓)または神様の名
伎佐耶（きさや）：木鞘、または剣。
布都（ふつ）：神剣、鋭く断ち切る音を擬音で表したもの。
伎佐耶布都（きさやふつ）：木の鞘に納められている刀剣を意味しているとされる。

「多祁伊奈太伎佐耶布都」とは「勇大なイナタが持っていた木鞘に納められた神剣」となるそうです。別名では『岩穴宮（いわなぐう）』『岩屋権現（いわやごんげん）』『原谷権現（はらたにごんげん）』などと呼ばれています。

かみはらたにせっかいがんきょだいれき
上原谷石灰岩巨大礫は広島県の天然記念物に指定されています。高さ約30m、幅約33m、奥行は35mだそうです。何千年も前から、日本人の文化として神社やお寺に参拝する事が当たり前になっている事が改めて凄いことだと思いました。
日々の感謝の気持ちを神様に伝えることで自分と向き合い、頑張ろう！！と前向きに思えました。
また、自然の力って本当にすごいなぁっと感じる時間を過ごせました。
皆様の県にも是非行ってみて！と思う、お寺や神社があれば教えて下さい。
いつか行ける日を目標にしていきたいと思います。

鍾乳洞

スタッフ紹介

橋本 勝由プロフィール

名前	橋本 勝由（はしもと　かつよし）
生年月日	1983年11月27日　（41歳）
血液型	A型　細かいところも気にしますが、けっこう大雑把な一面。 まぁそこが自分らしさかなと思っています。
家族構成	妻と双子の男の子、女の子です。妻は小学校からの幼馴染で笑顔が素敵なしっかり者です。泣き虫だけど優しい虫博士の息子と、運動神経抜群でいつも元気な娘に、毎日元気をもらっています。
長所	天然でちょっとドジだけど、優しくて頼れるねと言われるタイプです（笑）
短所	猪突猛進過ぎるところ
出身	兵庫県尼崎市
趣味	料理です。休日は妻と子どもにふるまっています。 ビール片手に料理を作りながら、料理ができる頃には私はお腹いっぱいです笑
古美術品で好きなもの	刀です。先日、居合斬り体験をしました。真剣の重量感、切れ味を実際に体感し、当時の命を懸けた侍の覚悟と恐怖を感じ取れた気がしました。

海外のお客様よりコメントを頂きました

いつもNLありがとうございます。
歴史が面白く、とても楽しく読ませてもらっています。私は日本の文化にとても興味があり、自国で合気道を習っています。
いつか日本に行き、大名に行きたいと思っています。その時はどうぞよろしくお願いします。
（O-さん）

こちらこそ、いつもありがとうございます。
いつもNLを読んでいただきありがとうございます。
ぜひとも！大名でO-さんを心よりお待ちしております。

初めてのお客様からもコメント頂きました

こんにちは。
迅速な対応、丁寧な梱包等非常に気持ちの良い取引が出来て良かったです。ありがとうございました。そして、感謝クーポン？とてもいい特典ですね。沢山集めたいと思います。
でも、返送しないといけないから少し手間ですね。
どうにかなりますか？　（T-さん）

ご連絡ありがとうございます。
感謝クーポンについてのご意見ありがとうございます。
手間を少なく出来る方法を考えていきます。
ぜひ沢山集めてみて下さい。

今号の大和魂はいかがでしたか？ 皆様のご意見・ご感想どしどしお寄せください。お待ちしております。
件名：ニュースレター返信と入力して送信して下さい。

有限会社 大名
最新情報はこちらから ホームページ https://daimyou.com/
広島県尾道市栗原町2-1 3F　Eメール sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp
TEL.0848-29-3936　FAX.0848-29-3937

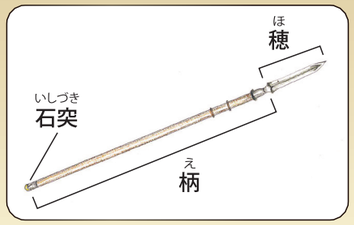
こんにちは、島谷です。
暑い日が続きますが、体調を崩されていませんか？
今号では、お客様のコメントにありました、
槍拵について語らせていただきます。

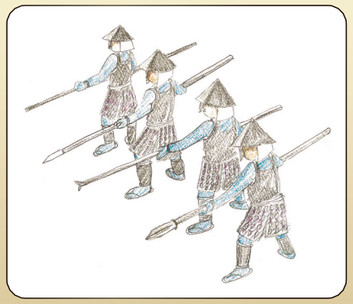
語ります 大和魂

＊どんな種類があるの？

鞘と柄で出来ている槍の拵えですが、用途によって種類が7種類ほどあります。今号では、「素槍拵」「大身槍拵」「飾槍拵」を語らせていただきます。

大量生産されていた素槍拵





戦国期に入ると、歩兵による集団戦が主力となっていきました。
軍団単位で装備をし、騎馬武者に対抗した戦い方をしていました。
弓・刀に加えて長柄武器の槍が歩兵の主力武装となり、大量生産が必要になっていきました。柄に蒔絵や、はばき、石突等の装飾をほとんどせず、刃部に柄を付けただけの簡素で実用性重視の「素槍」が大量に製造されるようになりました。
簡素ではあるが、壊れにくくする為、硬い樫の木を使い、黒漆塗や籐巻きで補強をしていました。そして、柿渋を塗布することで、防水性、防腐性を高め、耐久性を向上させていました。
戦国期、織田信長の鉄砲・槍隊なども実際は素槍主体で戦っていました。保存より実用が優先されたため、現存数は少ないです。
江戸時代に入ると戦が減り、素槍は次第になくなっていきます。

長い槍に合わせた大身槍拵

穂先の長さが約30cm以上のものが「大身」とされ、その刃に合わせた拵で、柄の長さは、約2.5～4.5mもありました。柄には漆塗や蒔絵の装飾が施され、籐巻で補強し、銀・真鍮の金具、鞘付きの立派な拵でした。戦国期に武威と武功の象徴として、熟練者や武勇に優れた上級武士が使用していました。本多忠勝の蜻蛉切（約43cm）も大身槍拵です。

装飾重視の飾槍拵

江戸期には実戦で使われることなく、大名、旗本などの高位武士が参勤交代や大名行列で、家の格式の高さの象徴として使用されていました。金具や蒔絵、緋色の下緒などで豪華に飾られていました。

戦い方、時代の変化で変わっていきました。加藤清正の「片鎌槍」、前田家伝来「宝槍」など、大名家に伝わる華やかな大身槍の拵。とは反対の実用的な素槍拵は、大量に生産されたにもかかわらず、現存数が少ないとされています。戦場でどれほどの数が埋もれているのでしょうか？

ハナエモンの タ～イムスリップ！

歴代天下人のNo2武将が終わったので、今号からは個人的に気になるNo2武将に注目していきます。

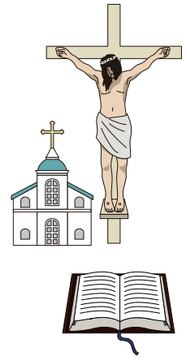
今号は大友宗麟のNo2、この方にタァ～イムスリップ！

戸次鑑連

べっきあきつら （1513―1585年）

戸次鑑連、こちらの名前より立花道雪の通称の方が有名だと思います。戸次氏は豊後（大分県）で代々大友家の重臣を務めた豪族で、鑑連も若い頃から大友家に仕えていました。20～30代から最初の主君である大友義鑑の元で数々の戦で手柄を立てており、大友家の中でも頭角を現していました。その為か鑑連の鑑の字は主君である義鑑から一字を賜っています。その後、義鑑と嫡男の義鎮（後の宗麟）との間でお家騒動が起こり、結果、義鑑が討たれてしまいます。義鎮が鑑連の次の主君となります。

忠誠心の塊



鑑連は忠誠心が高かった武将として知られています。主君である義鎮は若い頃、領国経営、仏教保護において非常に評判が高く、家臣達の信望を集めていました。しかし、義鎮は後年、キリスト教信仰や芸術に傾倒するようになってしまいます。キリスト教への信仰心から寺社の破壊を行ったり、美術品収集の為に領民への重税を課すなどして、家臣、民衆からの不満が高まっていきます。そこで鑑連は「殿、仏を捨て、神を捨て、人の心を失えば、いずれ家も人も離れてゆきます。信仰は己の内にとどめ、政は広く民を救うものでなければなりません。このままでは大友家は滅びます。」と書状で諫言をしていきます。一時的に態度を改めた義鎮ですが、その後も基本的に信仰を優先し続けていきます。鑑連は失望しながらも見限らず、軍事面で家を支え続けていきます。

従順な家臣ではなく、大友家を本気で守ろうとする鑑連だからこその諫言だったのでしょう。
諫言以外にも自身の娘を立花家に送り込み、女性城主にして、自身の名声を後ろ盾にして、大友家の支城を強化する為に家族をも巻き込んでいきます。

大友家の雷神

生涯無敗の名将と語られる鑑連は、大友家の雷神と呼ばれていました。若い頃に雷に打たれて片足が不自由になったと伝えられる鑑連は、この体験を神の加護と捉え、雷神を守護神として崇めていきます。病身であっても前線で指揮を執ったと云われています。激しい戦い振りと雷に打たれても死なず、無敗を重ねていくことで、雷神と呼ばれるようになります。また、毛利家が九州進出してきた時には名将として名高い吉川元春を破り、小早川隆景との外交交渉でも活躍します。　隆景の書状に「鑑連は真の忠臣、彼一人が大友家を支えている」と書かれています。

実際には一度も負けてないということはないでしょうが、鑑連が指揮を執った戦では、敵に突破されたことがほとんどないとされています。そんな鑑連が主役のこちらの小説が面白かったのでご紹介致します。赤神諒先生の「戦神」です。是非、一度お読み下さい。